

## チャンネル1のドキュメンタリー 2011年4月3日 アシェル イントレーター

今週、チャンネル1の非常に人気のある（セカンドルック:「再検証、見直し」という意味）番組において、ジャーナリストのカレン・ネウバツハによるドキュメンタリーが放送されました。それは、イスラエルのメシアニックジューに対して攻撃する団体についてでした。この番組はメシアニックジューに対して「好意的」ではなかったものの、私たちに対して迫害してきたことや、反メシアニック団体の非倫理的な活動をはっきりと暴きました。

この番組は、カレブ・メイヤーズ率いるエルサレム司法研究所の活動も報道しました。カレブ氏はイスラエル内外双方において公民権を守るための主要な擁護者であり代弁者になっています。この番組はまたヤッド・ハシュモナのイタイ・メロン氏、ベエル・シェヴァのアヴネル・ボスキー氏、アシュドトのペニーナ・コンフォルティ氏や、その他の人々のインタビューを放送しました。

主な議論は、イスラエルでの民主主義の権利という問題とユダヤ人の宗教アイデンティティーを中心としています。この番組では信教の自由に関しては大いなる勝利を収めましたが、宗教アイデンティティーに関するより複雑な問題について対応することはできませんでした。（このような霊的闘いは将来において私たちを待ちかまえています。）

この番組の目的は確かに伝道的ではなかったものの、リバイブ・イスラエルの宣教チームの活動、アハヴァット・イエシュア・Congregationでの賛美、エレミヤ31章にある新しい契約についてのアシェルの教えなどのシーンが含まれています。この番組はヘブライ語ですが、以下で観ることができます。[http://www.youtube.com/watch?feature=iv&v=GvtxhvKs\\_WA](http://www.youtube.com/watch?feature=iv&v=GvtxhvKs_WA)

---

### 個人伝道

私たちは、更新したリバイブ・チームとネタネル・ハウスの協力による対外活動を含み、地元のイスラエル人と共に個人伝道を行う機会が急増しているのを見ています。例えば、ラケル、アシェル、そして彼らのチームメンバーが今週、地元の家族のシャバット（安息日）の夕食に招かれ、その家族に対して私たちの信仰を分かち合うことができました。その雰囲気はすばらしく、何時間もの交流とメシアと神の御国に関して心からの対話をするのができたのです。

私たちの姉妹であるTさんは大学生で、イスラエルの地におけるメシアニックジューに関するレポートを分かち合ったいと頼まれました。クラスが終わった後、20名ほどの学生たちが残ってさらに質疑応答が行われました。このような実を地元のイスラエル人信者が実らせることができるのです。現実的で、つながりがあり、個人的で、愛があり、コストが少なく海外の宣教キャンペーンよりも効果的なのです。

福音は言葉だけで分かち合うものではなく、実際の生活の証が誠実なもので、高潔で勇気があり、奉仕によって裏付けられるのです。「私たちの信仰は私たちの誠実さによって表現されるものなのです」

---

## ティトスまたはピレモン

サウロの（パウロの）、ティトスへの手紙とピレモンへの手紙において明らかな書き方の違いがあります。ピレモンへは（**ピレモン 8-9 節**）、サウロは文書の大半を彼に、恵み深い要望（オネシモの起訴を取り下げること）に協力して欲しいと個人的にお願いしています。ティトス（**ティトス 1:5**）に対しては、サウロは長い「行動項目」を並べています。彼はティトスに対する配慮にきめ細かく対応せずに権威を持って語りました。サウロはティトスをより信頼していました。彼は、ティトスが行動し、服従し、従い、協力する用意があることを知っていました。ティトスの心は準備が整っていたのです。

あなたはティトスになりますか、それともピレモンですか。それはあなたの権威に対する態度に依ります。私は弟子たちに対して、自分の周りにいる人々、とりわけ彼らの権威の元にいる人々に対してピレモンに対する優しさと配慮を持つようにと助言しています。しかし、他者から指示を受ける立場にある場合、ティトスのように行動しなさいと伝えています。自信と服従を持って立てば、権威にある人々は彼らを信頼し、彼らの感情を害する懸念もなく直接語ることができるのです。

---

## ゴールドストーン氏は痛恨の意を示す ソロモン・イントレーター

4月1日金曜日、ワシントン・ポスト誌は、元国連人権検察官であったリチャード・ゴールドストーン氏が彼の報告書に記した結論に関して悔やんでいると述べた手紙を掲載しました。その報告書は、イスラエルが2008年-2009年の「**鑄造された鉛作戦**」の間、市民を標的にすることを便宜上の政策としたことを責める内容であったと誤って弾劾したことが述べられています。

ゴールドストーン氏は退官した南アフリカ共和国の判事で、国連によるユーゴスラビアとルワンダの戦争犯罪を告発する指導を行ってきました。ゴールドストーン氏はユダヤ人で非宗教的な家庭で育ち、彼の道徳性を形成したのは彼のユダヤ性のお陰であるとし、それによって南アフリカ共和国のアパルトヘイト政策に反対する公的な活動に導かれ、そして最終的には国際起訴を行う立場へと導かれました。

「**鑄造された鉛作戦**」において、イスラエルは、ハマスによって支配されているガザ地区からの断続的なロケット攻撃に、地上攻撃をしかけることによって防戦しました。多くのガザ市民はテロリストと

の交戦の中で命を落としました。ゴールドストーン氏はガザ紛争の「事実を見つけるための任務」を指導するために国連によって任命されました。

イスラエルはゴールドストーン委員会と協力することを拒否しました。それは、委員会の目標の中にイスラエルに対する偏見が述べられていたからでした。ゴールドストーン報告書は、ガザ地区の犠牲者に関して述べる傍ら、イスラエル人または兵士たちの犠牲者の証言を無視しました。報告書は国際的にイスラエルのイメージに対する重大かつ取り返しのつかないダメージを与えてしまったのです。

ゴールドストーン氏は今まで国連人権理事会がガザからイスラエルにロケット攻撃を行ったことを非難しなかったこと、他国の人権侵害についてバランスの取れたアクションを取らなかったこと、そして、元の報告書からイスラエルのみ過剰に標的とする結論を原本から部分選択して承認してきたことを批判してきました。

ワシントン・ポストの記事で、ゴールドストーン氏は元の報告書を作成する上で相当誤った情報が伝えられたと述べました。この記事を通して、この点について繰り返し述べていますが、ゴールドストーン氏はイスラエルが協力的でなかったことが原因であったとも非難しました。ゴールドストーン氏は判事として、彼の前にあるいかなる証拠を元にしか結論を述べることができないと述べました。

その時より、イスラエルは違法行為と疑われる400を超える案件を調査していますが、ハマスからまったく協力を得られていません。ゴールドストーン氏は、もし今知っていることをその時知っていたならば、彼の元の報告書は違うものになっていただろうと述べました。

ゴールドストーン氏が正式なイスラエルからの調査結果を待たずにハマスの根拠のない主張に信頼を置いたことは非現実的であり不法でした。ゴールドストーン氏の根拠のない思いこみは誤っていました。イスラエルの政策は確かに市民を標的にしないことでしたが、むしろそのような行為を自制しようと行動しました。

ゴールドストーンは、報告書の結果として、国連人権理事会がイスラエルを標的としてきたことからハマス当局によって犯した犯罪へとその決議の路線を変更する機会となることを願っています。残念なことに、元の報告書がもたらしたダメージや、国連人権理事会の今までの経緯から、それは起こりそうにもありません。ゴールドストーンの記事は以下で読むことができます。(ワシントン・ポストの記事原文)

[http://www.washingtonpost.com/opinions/reconsidering-the-goldstone-report-on-israel-and-war-crimes/2011/04/01/AFg111JC\\_story.html](http://www.washingtonpost.com/opinions/reconsidering-the-goldstone-report-on-israel-and-war-crimes/2011/04/01/AFg111JC_story.html)